



高等学校特別支援チーム東北地区連絡会議



関係機関

比内支援学校が東北地区の高等学校特別支援チームの事務局を担当しています。

一年間の取組の中で、各高校のコーディネーターが参加する「担当者連絡会」を年2回実施し、その内容を各関係機関が参加する「高等学校特別支援チーム連絡会議」の中で報告して、各関係機関から助言を受けています。各校の取組の現状も含め、関係機関からの御意見をお伝えします。



鹿角小坂・大館北秋田地区高等学校特別支援教育担当者連絡会（6/4、1/29）

※高等学校の特別支援教育担当者（コーディネーター）が参加

※今年度は大館市教育委員会 佐々木百合臨床心理士に参加していただきました。



高等学校特別支援チーム東北地区連絡会議（6/20、2/24）

※職業安定所、障害者職業センター、ふきのとう秋田、各地区障害者就業・生活支援センター、高校教育課、特別支援教育課、北教育事務所、スペースイオ担当者、東北地区各支援学校担当者

協議1 校内支援体制の構築

○特別支援教育年間計画に沿って、定期的に（毎月・年10回など各校で工夫している）校内支援委員会や「生徒情報共有会議」を実施し、気になる生徒について情報を交換している。職員会議の中で説明することで、全職員で共通理解が図られるようにしている。

○各校の実情に応じた研修会が実施された。

【高等学校特別支援チームと大館桂桜高等学校との共催で実施】

「就職を目指した進路選択や自己理解に向けた支援～特別な配慮が必要な学生にむけて～」

秋田障害者職業センター主任障害者職業カウンセラー 中村絢子 氏

実践紹介「進学時における合理的配慮について～大館鳳鳴高校の事例～」

大館鳳鳴高等学校 富樫さつき 教諭

【自校研修】

「発達特性の凸凹をもつ生徒の生きづらさの理解と対応」大館市教育委員会臨床心理士 佐々木百合氏

「演習 困難さの背景の推測から支援方法を考える」比内支援学校 藤田久美子

そのほか、ユニバーサルデザイン、合理的配慮等のミニ研修会を特別支援教育担当者が毎月実施している高校もあり、自校の特別支援教育について理解が図られるよう工夫されてきている。

協議2 個別の指導計画や教育支援計画の作成と活用

○中学校から引き継いだ個別の教育支援計画等を継続作成、活用していくかについて、校内支援委員会で検討している。

○教育支援計画が引き継がれた生徒が5名入学し、情報が引き継がれて高校生活に適應している生徒が多いので、効果を感じている。

●各計画の作成・活用の仕組み作りがまだ不十分で、活用するまでに時間が掛かってしまうことが課題。

●複数名の生徒の計画の引継ぎがあったが、本人と担任の理解が得られずに作成に至っていないケースがある。学校生活への不適應が見られたケースもある。

中学校から各計画が引き継がれたり、高校側から積極的に問い合わせたりするケースも増えてきている。個別の教育支援計画・指導計画の作成、活用の仕組み作りが今後の課題となる。

高等学校特別支援チーム連絡会議の参加者より情報提供・助言

学校のタイプによって支援のノウハウの違いがある

- ・同じ地区の高校で情報交換を行うこともよいが、学校の特徴によって情報交換をしてもよいのではない。例えば、進学する生徒が多い学校で発達障害や配慮申請について事例を紹介しあうなど、他地区同士でも情報交換をすることで、同じような事例を共有できるとよいのではない。

保護者が生徒の状況を受け入れていることで、就労支援や進路指導が変わる

- ・保護者が子どもの実態を理解しているケースでは、インターンシップの際に生徒を理解してもらえるような情報を事前に伝えることで、就労・職場定着につながることもある。保護者も含めた困り感の共有や生徒自身の自己理解が必要ではないか。

個別の教育支援計画・指導計画の作成と活用について

- ・そもそも作成の仕方に慣れていないため作成が難しいという現状があることについて、学校の先生方の実務に合わせて伝えることが出来ればと考えている。
- ・中学校から引き継いだ各計画を活用して職員間で指導・支援を共有し、生徒の様子から継続作成を検討してはどうか。
- ・入学後に特別な支援が必要と思われたケースでは、現担任が仮案を作成して次学年に引き継ぐとよい。
- ・本人が作成・活用に参画することで、自分に必要な支援、学び方を知り、必要に応じて支援を求めることができることが期待できる。
- ・個別の教育支援計画の中に本人のニーズが見えてこない。学校が生徒に対して「こうあった方がよい。」と考えると、生徒に課題がたくさんあると考えてしまう。本来、生徒本人のニーズを受けて作っていくもの。本人を仕向けるような対応になると、本人や保護者からは「分かってもらえない」となりやすい。本人・保護者がどういう不安をもっているのかを理解したり共感できたりしていないと、学校と保護者・本人との指導・支援の方向性がずれたまま進んでいくことがある。

課題を受けて、高等学校特別支援チームとしてできること

1. 個別の教育支援計画・指導計画作成、活用のノウハウの提供

計画作成に不慣れな教員に対し具体的な記入例を提示したり、ケース会議等において、校内での役割分担を検討したりできます。例えば、事例を取り上げて、校内で実際に作成する機会を設定する等の研修のお手伝いが考えられます。

2. 関係機関と連携した就労やケースに応じた支援内容の提供

各校の特別な支援を必要とする生徒の指導・支援について、特別支援チームの各機関とつなぎ、アドバイスを頂くことができます。様々な視点から生徒の現状を捉え、適切な対応につなげていくことが期待できます。

センター的機能を御活用ください

自校（園）に特別な支援が必要なお子さんが在籍する場合には、ぜひ本校のセンター的機能を積極的に御活用ください。

- ・就学先や進路先に関する相談
- ・特性に応じた学習や療育に関する相談
- ・ケースに応じたアセスメントの実施
- ・職員、保護者向け研修会のお手伝い
- ・ケース検討会での助言
- ・お子さんや保護者との面談への参加

地域支援担当【問い合わせ先】

比内支援学校 教諭（兼）教育専門監 藤田久美子
特別支援教育コーディネーター 根本 陽子
TEL 0186-55-2131 FAX 0186-55-2132